

木根 繁さん
色丹島出身



ソ連が来る前は家はマタコタンでタラ釣り漁業、タラ加工をやっていました。ソ連が来てからは、仕事が全然出来なくなつたんで、うちの父は船長、機関士の技術を持っていたので、色丹島と根室との交易（島から備蓄米や海産物を運び、日用品や漁具を持ち帰る）の手伝いをしていました。私の記憶では根室に三度ほど来ているはずなんです。村長を連れたり、色々そういうことを聞いておりました。

野田 花さん
国後島出身



古釜布の近くの沖ノ古丹に住んで家は漁師、鮭場と蟹工場をやっていました。ソ連が上陸してきて家に入ってきて、あんた達はここではなく、小屋に行つて住みなさいと言われた。それから畳一畳をうちの玄関の人の出入りする真正面に置いて、スターリンの肖像画を飾った。これに挨拶をして歩きなさいと頭を下げるだけではダメだとなんか難しいことを言つて。土地、家を盗られ、こういった物を飾られて、頭を下げてって言われて、いくら子供でも馬鹿らしいんですよ。

館下 雅志さん
国後島二世



母が国後島古釜布で2年間混住。母はロシア人と暮らす中でチョコをもらったり、ロシア語も話せたと聞いております。日本人として島を返せといっても、島に戻る人間がいなくてはならないと思う。元島民も後継者も島に住みたいとロシアに強く伝えていかなければならない。若い人の弁論発表でも共住がよくテーマとなっている。ロシア人と交流して思うのは、四島で育ったロシア人も可哀想だ。主権はどうあろうが、国が責任を持って話し合いをし、解決に結びつけてもらいたい。